

NCC HEADLINE

【日本キリスト教協議会 最新情報】 毎月 21 日付に掲載

「靖国神社問題」を問い続ける

4月7日、NCC靖国神社問題委員会は、内閣総理大臣・高市早苗氏宛に「首相・閣僚は靖国神社春季例大祭に参拝及び真榊奉納をしないでください」とする要望書を提出しました。さらに5月4日には、「首相及び閣僚の靖国神社春季例大祭での参拝、真榊奉納に抗議する」と題する声明を発表しました（NCCホームページ参照）。こうした公文は毎月第一月曜日に開催する定例委員会で検討して発表しています。

委員会の歩みは、1967年、「靖国神社国営化法案」への対応として特別委員会が設置されたことに始まります。現在は、NCC加盟教団・団体だけでなく、日本福音同盟（JEA）やカトリックからも委員が参加しています。

当委員会は、「靖国神社問題」を中心課題としつつ、その都度、声明や講演会などを通して委員会の見解を明らかにしてきました。活動を続ける中で、1989年の昭和天皇裕仁の死去以降、「新元号の施行」、「即位後朝見の儀」、「大喪の礼」、「即位の礼」、そして戦後初の「大嘗祭」など、天皇代替わりに伴う諸行事・諸儀式が続きました。さらに2019年には、現天皇徳仁の「大嘗祭」が行われています。

戦後二度の天皇代替わりを通して、「日本の伝統」の名のもとに天皇の位置づけが強化され、天皇由来の行

事や活動には、「政教分離の原則」も届かない聖域が広がっています。それは個々人の「思想・信教の自由」を侵害する問題でもあります。この大きなうねりは、私たちの信仰や教会をも飲み込み、取り込もうとしています。まさに靖国神社問題、そしてそれと密接に関わる天皇制の問題は、日本の教会の「宣教と教会形成の課題」です。

委員会では、こうした問題を学ぶため、ブックレットの発行も続けてきました。問題の本質を知り、学び続けることは、いまの時代にますます必要になっています。ぜひ個人でも教会でもご活用いただき、委員会の働きを覚えていただければ幸いです。

（大島博幸 おおしま・ひろゆき＝日本バプテスト連盟、NCC靖国神社問題委員会協力幹事）

- 【ブックレット一覧】（1冊500円、10部以上送料無料）
- ・「国立追悼施設Q&A」（2004年8月1日、在庫僅か）
 - ・「靖国問題・国立追悼施設Q&A」（2006年6月1日）
 - ・自民党新憲法草案批判、天皇制問題・20条問題」（2007年4月1日）
 - ・「千鳥ヶ淵問題Q&A」（2008年8月1日、在庫僅か）
 - ・「天皇の代替わり問題とキリスト教Q&A」（2012年11月1日）
 - ・「安倍70年談話と私たちの課題」（2016年10月1日）
- ＊ブックレットはNCCホームページ「資料・出版物」から注文できます。

苦しむ人々の叫びを聞き、解放へと導かれる方であるという信仰を確認。「変革の担い手」として歩む決意を新たにしました。最終日に採択されたコミュニケでは、教会や社会に対し、若者を単なる「将来の担い手」としてではなく、今を共に担う存在として受け止め、意思決定や働きへの参与を保障するよう求めています。

日下部春希さんは報告の中で、「難民として生きる人が私の隣にいる」という驚きや、パキスタンの参加者が「結婚という暴力について祈ってほしい」と語ったことの重み、さらにミャンマーの若者の死が「日常の延長」として語られた衝撃について記しています。また、日本のキリスト者の孤独や若者の少なさに対して、アジアの青年たちが驚いたことにも触れ、「軀」は単純に比較できるものではなく、それぞれの現実の中で重く存在している



青年大会の一コマ（CCAのホームページより。ここからコミュニケも読める）

アジア・エキュメニカル青年大会

日本から3人を派遣

アジア・キリスト教協議会（CCA）は、4月17日から21日まで、タイ・チェンマイのパヤップ大学を会場に「アジア・エキュメニカル青年大会（Asia Ecumenical Youth Assembly: AEYA）」を開催しました。テーマは「すべての軀を砕け」（イザヤ58：6）。NCCから芹田創平さん（日本キリスト教会）と日下部春希さん（日本基督教団）が、在日大韓基督教会から濱名佳純さんが参加し、アジア各地から200名を超える青年たちと出会いと学びの時を過ごしました。

大会では、戦争と軍事化、弾圧、貧困と搾取、ジェンダー差別、強制移住や人身売買、気候危機、SNSによる孤立や分断など、現代の若者を縛るさまざまな「軀」がそれぞれの現場から分かち合われました。また、礼拝や聖書研究、グループ討議等を通して、神は

と語っています（「オイクメネー」第73号）。7月にはオンライン報告会を計画中。ぜひご参加ください。（大嶋果織 おおしま・かおり＝日本基督教団、NCC総幹事）



NCC ホームページ <https://ncc-j.org/> Facebook 日本キリスト教協議会 TEL 03-6302-1919 FAX03-6302-1920 Email general@ncc-j.org 郵便振替 00180-4-75788 加入者名 日本キリスト教協議会

教育週間委員会を開催

2026年度テーマは「平和のたねをまこう」

毎年10月第3日曜から第4日曜までは「キリスト教教育週間」（以下、教育週間）です。NCC教育部では教育週間委員会を設置して、その年、特に訴えたい内容と、教育週間に併せて募る「平和のきずな献金」の呼びかけについて協議し、趣意書や学習教材を作成しています。

3月24日と4月24日にはオンラインで委員が集まり、今年度のテーマと聖句について話し合いました。その結果、今年のテーマは、「平和のたねをまこう」、聖句は、ヨハネによる福音書13章34節の以下の言葉になりました。「あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

この言葉に耳を傾けながら、子どもたちが「愛」について自分たちの言葉で考え、表現できるようなワーク型の趣意書を作成しようと話し合っています。例えば、今回の献金先であるブラジルの青少年育成プログラムや、バングラディシュの障がいを負う子どもの養育支援（JOCs「JOYJOYプロジェクト」）の実際を紹介するなどして。これからデザイナーと話し合いながら趣意書を作成していきますが、

7月はじめにはNCC教育部ネットワークニュース78号と共に全国の教会や学校にお届けできるでしょう。

教育週間委員会には、日本基督教団、日本ナザレン教団、日本聖公会、日本バプテスト同盟、日本バプテスト連盟から委員が派遣されています。牧師や信徒、学校関係者、学校外の居場所作りに取り組んでいる人など、幅広い視点から意見を出し合って、毎年の教育週間が豊かになるように協力しています。

また、「平和のきずな献金」は、海外の献金先については毎年二つの団体を新しく選定し、国内の献金先については毎年継続して、アイヌ民族の子どもたちと外国にルーツをもつ子どもたちを覚えて、それぞれアイヌ奨学金キリスト教協力会、福島移住女性支援ネットワーク、四国朝鮮初中級学校にお送りしています。

2026年にキリスト教教育週間は第76回を数えます。世界の子どもたちと手をつないで歩もうとして始まったこの週間が、平和と共生社会に向けての祈りと連帯への機会となるように願っています。

（臼井愛子 うすい・あいこ＝日本バプテスト連盟・NCC教育部スタッフ）

【協力・後援集会】

＊詳細は NCC 教育部ホームページ「集会案内」をご覧ください。

- 「子どもと聖書とエキュメニカル運動」検証プロジェクト主催・第6回公開講座 7月18日（土）後2時～3時半、日本キリスト教会館4階会議室＋オンライン。有料・要申込。
- 同プロジェクト主催・AVACO 視聴覚教材展 8月1日（土）～9日（日）、教文館3階ギャラリー・ステラ（東京都中央区）。無料、自由観覧。
- 同プロジェクト主催・第7回公開講座 8月1日（土）後2時～3時半、教文館3階ギャラリー・ステラ（同上）＋オンライン。有料、要申込。
- 全国キリスト教学校人権教育研究協議会実行委員会主催「第36回全国キリスト教学校人権教育セミナー」 8月11日（火）～12日（水）、カトリック麹町聖イグナチオ教会信徒会館（東京都千代田区）、13日はオプション・フィールドワーク。有料、要申込。

【理事会・委員会の予定】

- 5月21日（木）第5回理事会
- ＊随時教育週間委員会



NCC 教育部 ホームページ <https://nccj-edu.jimdofree.com/> TEL/FAX 03-3203-0731 Email nccjedu@gmail.com 郵便振替 00150-8-98713 加入者名 日本キリスト教協議会教育部